

つなぐ想い、つくる未来

主催：野村総合研究所 2011年10月24日 会場：東京国際フォーラム

野村総合研究所（NRI）は、東京国際フォーラムで「未来創発フォーラム2011」を開催した。約2900人の来場があり、「つなぐ想い、つくる未来」をテーマに講演とパネルディスカッションが行われた。

■講演1「東日本大震災からの復興に向けて」（NRI 顧問 増田寛也）

被災地に何度も足を運び現地を見てきた。従来の震災と違い、今回は津波被害、原子力発電所事故、電力不足、風評被害など、被害は日本全体に及んでいる。これを機に日本が抱えていた構造的な課題も浮かび上がってきた。行政は地域に権限を移譲して住居や雇用問題を解決し、経済と社会制度の両面から早期に復興を進めていく必要がある。

■講演2「岐路にたつ日本人——覚悟と希望」（NRI 未来創発センター長 取締役常務執行役員 谷川史郎）

日本の構造変化が進みにくい原因は、国民一人ひとりの当事者意識の低さにある。これからの10年、「次世代が誇りを持って働ける仕事の創造」が重要。新産業による雇用機会の創造や海外で活躍する人材育成などである。多くの金融資産を保持する高齢者が、生前贈与などを通じて次世代にお金を回すことも原動力になる。2025年には団塊世代が後期高齢者になる。これからの10年が日本再生の岐路になる。

■パネルディスカッション「次の世代、未来のために今できること」（パネリスト：建築家 伊東豊雄氏、東京大学社会科学研究所教授 玄田有史氏、JT生命誌研究館館長 中村桂子氏、NRI公共経営戦略コンサルティング部イノベーション・人材戦略担当部長 齊藤義明、モデレーター：ジャーナリスト 池上彰氏）

伊東氏 被災地で仮設住宅「みんなの家」をつく

っている。人とのつながりを仮設住宅でも維持できる空間や場づくりをしてきた。東北の人々がもとも持っている自然とのつながりや、共同体を維持できるような復興計画をつくる必要がある。

玄田氏 先行きの見えない将来について考えるとき、わからないことは悪いと思われているが、そのことに素直に向き合い、わからないからこそ価値があると考えてもよい。そうすれば、誰も気づいていない発見があり未来をつくり出すことができる。

中村氏 従来の経済原理では人間を自然界の上に置いて考えてきた。しかし人間も自然界の一部。震災でそれが明らかになった。人間は想定を前提に技術を構築していく。自然界に想定はない。想定外は日常生活のなかに普通に存在する。それを実感することが大事である。

齊藤 震災以後、日本人の「野性」に対する危機感を感じている。海外からも人材が集まる日本を意識して変化に挑戦する国家を目指すべき。そのためには野性的、主体的な生き方が重要。野性を引き出す源泉は、好奇心、想像力。次の世代のために日本をつくり変えることに挑戦しなければいけない。

最後に池上氏が以下のように締めくくった。

池上氏 逆境を乗り越えてきた人こそ希望を持っている。今の日本は逆境にあるが、これまでも想定外の事態を何度も乗り越えて今の日本がある。苦しんでいる人たちに大丈夫と声をかけながら、力を合わせて復興を進めることが重要である。

.....

本フォーラムについてのお問い合わせは下記へ

コーポレートコミュニケーション部 墨屋宏明
電話 03-6660-8370 メール kouhou@nri.co.jp